
日本家族社会学会
第17回大会プログラム

2007年9月8日（土）・9日（日）

開催校・会場：札幌学院大学

大会日程

会場：札幌学院大学

▼第1日 2007年9月8日(土)

09:30～	受付開始	(A館 1F 出入口)
10:15～12:45	自由報告(1) A. 父親母親 B. 家族問題 テーマセッション NFRJ08(第3回全国家族調査)に向けて —類似調査のトレンド分析からNFRJの役割を 再考する—	(B—102 教室) (B—202 教室) (B—302 教室)
12:45～14:00	昼休み	
14:00～16:30	自由報告(2) C. 出生 D. 介護・世代間援助 ワークショップ 日本の家族社会学研究における理論の応用と構築 テーマセッション 家族／非家族をめぐって —つながりの根拠を問う—	(B—102 教室) (B—202 教室) (A—305 教室) (B—302 教室)
16:40～18:20	総会	(E—301 教室)
18:30～20:00	懇親会	(G—8 階ラウンジ)

▼第2日 2007年9月9日(日)

09:15～	受付開始	(A館 1F 出入口)
09:30～12:00	自由報告(3) E. 家族意識・感情 F. 教育・再生産 G. 家族調査 国際セッション(共催 国立女性教育会館) 日本の子育ては何が問題なのか —『家庭教育に関する国際比較調査』(国立女性 教育会館 2005)のデータから—	(B—102 教室) (B—202 教室) (B—302 教室) (E—301 教室)
12:00～13:00	昼休み	
13:00～16:15	シンポジウム 家族のオルタナティブ —家族研究の挑戦—	(E—301 教室)

大会プログラム

第1日 9月8日(土)

受付開始 (A館1階)

9:30 -

午前の部

10:15-12:45

自由報告(1)

A. 父親母親 (B-102 教室)

育児と労働の De-gender 化 - 男性の育児遂行 -
地方小都市における父親の育児支援の課題
「不登校」経験がもたらす家族関係の変容
我が子の体調不良時における働く母親が抱える苦悩
- 病児・病後児保育の利用を決定するまでの経緯に着目して -

司会 末盛慶(日本福祉大学)

小笠原祐子(日本大学)
冬木春子(静岡大学)
菊地千夏(北海道大学)
藤原弓子(高松短期大学)

B. 家族問題 (B-202 教室)

男が介護するということ
- 家族・ケア・ジェンダーのインターフェイス -
「遠距離介護」の変容過程に関する一考察
離婚にいたるステップと周囲とのコミュニケーション
Donor Insemination と家族の生き方
- ドナーの匿名性廃止のもたらすもの -

司会 山西裕美(九州保健福祉大学)

斎藤真緒(立命館大学)
中川敦(早稲田大学)
藤井聖子(東京経済大学)
南貴子(お茶の水女子大学)

テーマセッション (B-302 教室)

NFRJ08(第3回全国家族調査)に向けて 一類似調査のトレンド分析からNFRJの役割を再考する一

所得不平等の世代間固定性に関する実証分析
- SSM 調査をもちいた擬似パネルアプローチ -
JGSS 累積データ 2000-2006 にみる家族に関わる意識の変化
NFRJ からみたサポート・ネットワークの様態
- NFRJ98 と 03 を用いて -

保田時男(大阪商業大学)

吉田崇(東北大学)
宍戸邦章(大阪商業大学)
鈴木富美子(淑徳大学)

昼休み (各委員会)

12:45-14:00

自由報告(2)

C.出生 (B-102 教室)

司会 岩間暁子(和光大学)

- When Does the Stork Bring the Baby?
— Shotgun Babies vs. Non-shotgun Babies —
- 就業女性の出生意欲
— 親との同居、夫妻の家事分担、就業環境の役割 —
- 有配偶女性の出生意向と夫・親族からの支援
- 子どもへの意味づけと子ども数のコントロール
— NFRJ03 データの分析から —

- 暮石渉 (大阪大学)
- 若林緑 (大阪府立大学)
- 岩澤美帆 (国立社会保障・人口問題研究所)
- ジェームズ・レイモ (ウィスコンシン大学)
- 守泉理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 稲葉昭英 (首都大学東京)
- 賀茂美則 (ルイジアナ州立大学)
- 松木洋人 (早稲田大学)
- 裊智恵 (慶応義塾大学)

D. 介護・世代間援助 (B-202 教室)

司会 天田城介(立命館大学)

- 高齢者介護政策における「家族介護」(者)の認知過程と支援策の変容
- 介護保険制度における家族介護の位置づけの変化
— 制度改正のインパクト —
- 中国都市部における高齢期の世代間援助
— 瀋陽市の事例を通して —
- JGSS-2006 にみる実親および義親との世代間援助関係

- 笹谷春美 (北海道教育大学)
- 斎藤暁子 (法政大学)
- 笹谷春美 (北海道教育大学)
- 楊雪 (慶応義塾大学)
- 岩井紀子 (大阪商業大学)
- 保田時男 (大阪商業大学)
- 宍戸邦章 (大阪商業大学)
- 田渕六郎 (上智大学)

ワークショップ (A-305 教室)

日本の家族社会学研究における理論の応用と構築

石井クンツ昌子(お茶の水女子大学)

- 父親、母親が子どもへのコミットメントを維持する要因
— Rusbult's Investment Model の応用と検証 —
- 韓国成人未婚者における「自立意識」分析
— 社会構築主義的アプローチの試み —

- 加藤邦子 (日立家庭教育研究所)
- ユン・ジンヒ (お茶の水女子大学)

【報告キャンセル】親族以外の成人が子どもの well-being に与える影響 石川周子(相愛大学)

テーマセッション (B-302 教室)

家族/非家族をめぐるつながりの根拠を問うー

牟田和恵(大阪大学)

- 家族社会学は家族/非家族境界を問えるか
— 構築主義的家族研究の再検討 —
- シニアコレクティブハウジングの可能性
- 1970年代ウーマンリブのコレクティブからみた「新しい家族のかたち」
- 家族のことば・家族の時間
「ジェンダー家族」のポリティクス
— 「親性」の男女平等主義を再考する —

- 久保田裕之 (大阪大学)
- 稲見直子 (大阪大学)
- 西村光子
- 岡野八代 (立命館大学)
- 牟田和恵 (大阪大学)

総会 (B-301 教室)

16:40-18:20

懇親会 (G-8 階ラウンジ)

18:30-20:00

第2日 9月9日(日)

受付開始 (A館1階)

9:15-

午前部

9:30-12:00

自由報告(3)

E. 家族意識・感情 (B-102 教室)

司会

山田昌弘(東京学芸大学)

家庭内労働の再検討：結婚の質への感情労働の影響

平賀明子(北星学園大学短期大学部)

—アメリカにおける中年期研究(MIDUS)の日本版データにみる—

中国都市部の中年期夫婦—情緒関係に注目して—

于建明(お茶の水女子大学)

離婚相談における「子どものため」と「選択」の変容

野田潤(東京大学)

—家族の個人化に関する一考察—

家族の社会的定義の再構築—主観的家族論を超えて—

加藤彰彦(明治大学)

F. 教育・再生産 (B-202 教室)

司会

平沢和司(北海道大学)

ブラジル人家族の日本社会への適応戦略

山本かほり(愛知県立大学)

—子どもの教育という観点から—

学校で家族はどう教えられているか

表真美(京都女子大学)

社会階層と子育てにおける投資行動

新城優子(名古屋大学)

—子どもの教育達成プロセスに関する基礎的研究—

ジェンダーの再生産と社会保障

亀井あかね(東北大学)

—或るひとり親世帯の文化資本と社会関係資本に関する生活史調査—

G. 家族調査 (B-302 教室)

司会

田中重人(東北大学)

長期追跡パネル調査の構造と課題

○田摩 裕祐(大阪大学)

—職業とパーソナリティ日本調査の結果報告①—

○吉川 徹(大阪大学)

長期追跡パネル調査データの分析

○高松里江(大阪大学)

—職業とパーソナリティ日本調査の結果報告②—

○吉岡洋介(大阪大学)

配偶者選択方法の趨勢と帰結

吉川徹(大阪大学)

—JGSS-2006による分析—

筒井淳也(立命館大学)

子どもとの同居は幸せか

岩井八郎(京都大学)

—JGSS-2002による高齢者の経済的地位・家族形態・幸福感の分析—

国際セッション(共催 国立女性教育会館) (E-301 教室)

日本の子育ては何が問題なのか

司会 中野洋恵(国立女性教育会館)

—『家庭教育に関する国際比較調査』(国立女性教育会館 2005)のデータから—

船橋恵子(静岡大学)

(1) 親は子どもに本当は何を期待しているか

大槻奈巳(聖心女子大学)

(2) 親は何を悩んでいるのか

藤本隆史(国立女性教育会館)

(3) 父子の親子時間と父親の子育て(参加と態度)

酒井計史(国立女性教育会館)

—日本と韓国を中心に—

(4) タイの子育て—10年間の変化を考える—

江藤双恵(獨協大学)

ゲスト討論者

青木デボラ(北星学園大学)

櫻井義秀(北海道大学)

討論者

牧野カツコ(お茶の水女子大学)

渡邊秀樹(慶應義塾大学)

裴智恵(慶應義塾大学)

昼休み

12:00-13:00

午後の部

13:00-16:15

シンポジウム (E-301 教室)

家族のオルタナティブー家族研究の挑戦ー

司会 牟田和恵(大阪大学)

須長史生(昭和大学)

コレクティブハウジングの理念と実践

小谷部育子 (日本女子大学)

レズビアン家族とゲイ家族から「従来の家族」を問う

釜野さおり (国立社会保障・人口問題研究所)

家族の臨界ーケアの再配分問題をめぐってー

上野千鶴子 (東京大学)

討論者 野沢慎司 (明治学院大学)

連絡事項

1. 参加手続き

- 参加費は事前に下記の郵便振替口座へ同封の振込用紙 (手数料無料) にて**8月24日**までにお支払いをお願いいたします。事前振込みの場合は報告要旨集込みで、一般¥4500 円、学生¥3500 円です (当日支払いは、一般¥5000 円、学生¥4000 円)。参加手続きを終了し、大会にご欠席の場合は報告要旨集を後日郵送いたします。
- 非会員で参加をご希望の方は、参加当日に受付までお申し出ください。非会員の方の参加費は、一般¥5000 円、学生¥4000 円です。
- 大会の参加受付は、第1日目 (9月8日) は午前9時30分、第2日目 (9月9日) は午前9時15分からです。

2. 大会報告要旨集

- 大会当日受付でお渡しいたします。大会に欠席で要旨集をご希望の方は、大会参加費と同様、一般¥4500 円、学生¥3500 円 (送料含む) を下記の口座へお支払いをお願いします。後日、郵送いたします。

3. 懇親会

- 大会第1日目 (9月8日) 午後6時30分より、会場内にて懇親会を開催いたします。会費は事前振込みの場合、一般¥4500・学生¥2500 円 (当日支払いは一般¥5000 円・学生¥3000) です。参加をご予定の方は、下記の口座へ大会参加費とともに事前振込みをお願いいたします。懇親会費はご欠席の場合も払い戻しはいたしませんので、ご了承ください。

4. 昼食

- 事前の参加手続きの際に、お弁当のご予約を承ります。代金は一日目、二日目それぞれ¥1000 (合計¥2000) です。お弁当をご希望される方は、下記の口座へ大会参加費とともに事前振込みにてご予約をお願いいたします。なお、お弁当は、事前にご予約をいただいた分だけのご用意となります。大会当日のご注文はお受けしかねますのでご注意ください。大会期間中は学内の食堂、購買店は休業しており、ご利用いただくことはできません。大学の周辺にはコンビニエンスストアや飲食店などがいくつかございますので、そちらをご利用いただくことは可能です。

5. 参加費・懇親会費・弁当代振込先

郵便振込口座番号:02740—2—96901 口座名称:2007年度日本家族社会学会大会実行委員会
一般:大会参加費(¥4500)・懇親会費(¥4500)・一日目弁当代(¥1000)・二日目弁当代(¥1000)
学生:大会参加費(¥3500)・懇親会費(¥2500)・一日目弁当代(¥1000)・二日目弁当代(¥1000)

6. 研究報告者の方々へ

- 自由報告の**報告時間は 20 分、質疑応答は 10 分**です。
- 大会当日の配布資料は、**国際セッションおよびテーマセッションは 80 部程度、ワークショップおよび自由報告は 50 部程度**を各自でご用意ください。会場での個別のコピー・サービス、配布資料の会場への事前送付はお受けしかねますので、ご了承をお願いいたします。
- 報告用の機器としては、Windows PC による MS-Office (PowerPoint) をご用意いたします。
- パワーポイント等の使用に関しましては、以下の点についてご留意をお願いいたします。
 - a. 開催校では報告者の希望に添って、最大限の準備と協力をいたしますが、機器操作の結果につきましては報告者の自己責任でお願いします。また、万が一機器が作動しない場合に備えて、複写して参加者に配布できる印字原稿を用意いただくなど、次善の方策もお考え下さい。
 - b. 機器を使用する報告者は、報告される部会の**開始 20 分前**に各教室におこしください。機器使用に関する準備・打ち合わせなどを行ないます。
 - c. 開催校では、プロジェクターに接続済みのノートパソコン（いずれも Windows XP）をすべての部会の教室に用意しております。データは USB メモリーに記録してお持ちください。なお、ご自分のパソコンを持ち込んで使用される場合には、接続に多少の時間が必要となりますことをご承知おきください。また、ご自分のパソコンを使用される場合には、アナログ端子 (D-Sub15) に接続可能なケーブルをご用意ください。

7. 会員控え室、クローク

- 会員控え室は、B-301 教室をご利用ください。こちらに茶菓子を用意いたします。
- 大きなお荷物等をお預かりするためのクロークとして、A-301 教室をご用意いたします。

8. ホテル

- すでにニュースレター、メールマガジンなどでもご案内してきましたとおり、各自でご予約をお願いいたします。

9. ベビーシッター、学会期間中の託児室の設置について

- 学会期間中、札幌学院大学内に託児室を設置いたします。「NPO 法人 子育て応援 かざぐるま」から、有資格者（保育士・幼稚園教諭等）を派遣していただきますので、安心してお子さんを預けることが出来るかと思えます。

保育場所 札幌学院大学G館 5 階 和室（当日、受付でお尋ねください。ご案内いたします。）

天気がよければキャンパス内の芝生でも遊ばせるとのことです。玩具や絵本は用意いたします。

昼食は学会の昼休み時間に、各自、お子さんと一緒をお願いします。その際、お弁当等は、お子さんの分も含めてご用意ください。おやつは、こちらで用意いたします。

保育料金 1 日 2000 円

（実際は 1 時間 1900 円プラス交通費実費プラスおやつ代 1 日 100 円の支払いが必要です。お子さんを抱えて研究に励んでいらっしゃるお父さん・お母さん研究者とお子さんを応援する気持ちを込めて差額は開催校が負担いたします。）

申し込み方法

札幌学院大学・布施晶子メールアドレス（akifuse@sgu.ac.jp）宛に、下記の内容を必ずご記入の上、8 月 24 日までお申し込みください。

1. お名前、2. お子さんのお名前、3. お子さんの年齢（月齢も）、4. 授乳中か否か、5. おむつ使用中か否か、6. 集団保育の経験の有無、7. アレルギー等特記事項、8. 保育希望の日時（何日の何時から何時まで保育を希望するか）、9. メールアドレス。

10. その他

- 大会に関して、事前になにかご不明な点などございましたら、札幌学院大学・木戸功 (kido@sgu.ac.jp) 宛にメールにてお問い合わせください。

会場案内

<会場・連絡先>

札幌学院大学（大会会場）
 〒069-8555
 北海道江別市文京台 11 番地
 札幌学院大学
 第 17 回日本家族社会学会大会実行委員会
 メール：kido@sgu.ac.jp
 大会本部（大会当日のみ）：
 札幌学院大学人文学部社会調査室
 （A 館 4 階 402 教室）
 TEL: 011-386-8111（内線 4702）



<交通機関の案内>

JR 線新札幌駅および地下鉄東西線新さっぽろ駅をご利用の場合

JR 新札幌駅までの所要時間は、新千歳空港から約 30 分、札幌駅から約 10 分、地下鉄新さっぽろ駅までの所要時間は、大通駅から約 20 分です。

いずれの場合も新札幌バスターミナルよりバスをご利用ください。新札幌バスターミナルでは、北レーンの 9 番および 10 番乗り場からの JR 北海道バス、および 12 番乗り場からの夕鉄バスがご利用になります。路線をお確かめの上で、「北翔大学前・札幌学院大前」または「札幌学院大学正門前」で降車可能なバスをご利用ください（時間帯によって多少の違いはありますが、だいたい 10 分間隔で運行されています）。

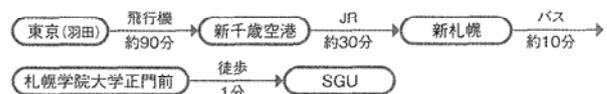
JR 線大森駅をご利用の場合

JR 大森駅までの所要時間は、札幌駅より約 20 分です（時間帯によって多少の違いはありますが、だいたい 15 分間隔で運行されています）。

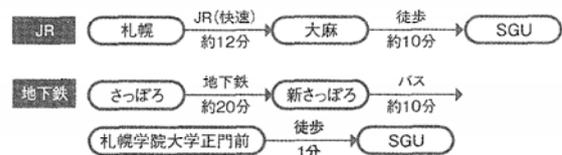
大森駅下車後、大学までの所要時間は徒歩約 10 分です。



■東京からのアクセス



■札幌からのアクセス



※新札幌バスターミナルでは、JR北海道バスが北レーン⑨、⑩番乗り場より、夕鉄バスが北レーン⑫番乗り場より運行しています。「北翔大学前・札幌学院大前」または「学院大正門前」で降車可能な経由バスに乗り場してください。

大会実行委員

布施晶子（実行委員長・札幌学院大学）、木戸功（札幌学院大学）、高田洋（札幌学院大学）、松本伊智朗（札幌学院大学）、松川敏道（札幌学院大学）、新田雅子（札幌学院大学）、吉岡亜紀子（北海道大学大学院）、川口めぐみ（北海道大学大学院）、岡田章宏（札幌学院大学・大学院研究課）